

日本昔話にタバコがあったら？！

- ① 日本昔話にたばこがあったら。はじまり はじまり～
- ② ウサギとカメは10キロマラソンを始めました。よ～い どん！
- ③ ウサギは順調に走り始めます。カメはゆっくりゆっくり。
- ④ ウサギは余裕の表情で、5キロ地点を通過。
- ⑤ その時です。ウサギは道端にきれいな箱を見つけました。(た〇〇〇〇と書いてある)
- ⑥ まだ、カメも来ないし、これはいいものを見つけたぞとウサギはその箱を開けました。
- すると、ボワ～ 箱からけむりが出てきました。
- ⑦ 箱を開けているウサギを横目に、カメはゆっくり ゆっくりゴールに向かいます。
- ⑧ カメはウサギに勝ってゴール。しばらくしてからウサギは顔色も悪く、息を切らして、ゴールです。
- ウサギは道草をととても後悔しました。
- ⑨ そのころ、岡山では桃太郎が鬼ヶ島に鬼退治に出かけようとしていました。
- おともに、犬とさるとキジを連れていきます。
- ⑩ 鬼ヶ島についた犬、さる、キジは大急ぎで鬼のお城に走っていきます。
- しかし、途中でこちらもきれいな箱を見つけます。(た〇〇〇〇と書いてある)
- ⑪ まだ、桃太郎も来ないし、これはいいものを見つけたぞと犬、さる、キジはその箱を開けました。すると、ボワ～ 箱からけむりが出てきました。
- 鬼のお城にたどり着いた、桃太郎とその家来。「いざ！合戦！！」と桃太郎が声をかけても道端で見つけた箱のまわりから離れません。
- ⑫ きび団子をあげて、やっと犬、さる、キジは動き出しましたが、やっぱり顔色が悪く、息を切らして戦えませんでした。桃太郎はしぶしぶおじいさんとおばあさんの家に帰りました。
- ⑬ 困った、ウサギと桃太郎は浦島太郎のところへ相談に行きました。

浦島太郎は教えてくれました。

- ⑭ 浦島太郎「みんなが開けた箱は、玉手箱だと思っただろうが、そうじゃなかったんだよ」

「僕も、乙姫様からもらったんだけどね」

「開けて、おじいさんになってしまってからよく見たら、たまたまこじゃなくて

『たばこまで』って書いてあったんだ」

『たまたまこ』『たばこまで』『たまたまこ』『たばこまで』

「似ているねど、違ったねえ」

「あわてんぼうだから、きっといいものだと思ったけど、タバコの煙を吸ってしま

ったんだ。それで、タバコの毒をすって体が動けない状態になったんだ！」

- ⑮ 桃太郎「でも浦島君はどうして、今元気なの」

浦島太郎「僕も竜宮城から帰ってきて、煙を吸ってすっかりおじいさんになったんだけど、

海を見ながら泣いていたら、遣いのカメがきて『これを飲んでタバコをやめなさい』

って薬をくれたんだ。」

「それと、乙姫様の手紙。『あなたを愛しています。一緒に元気で生きていきましょ

う』って書いてあったんだ」

「乙姫様は悪い奴らに騙されて、箱を僕らに渡したけど、大変なことだ！とから知っ

て、カメを遣いによこしたんだ」

「ウサギ君も桃太郎君も、みんなにこの話を伝えてタバコをやめてもらおう」

- ⑯ ウサギ「わかったよ。あわてんぼうな自分を反省するよ」

「ところで、乙姫様と浦島君はこれからどうするの？」

浦島太郎「海に見える高台で一緒に暮らすさ。みんなにタバコの害を教えてあげなくっちゃな

らないし」「みんなに僕たちのラブを分けてあげるよ」（おしまい）

日本語に

タブ「ヨ」が



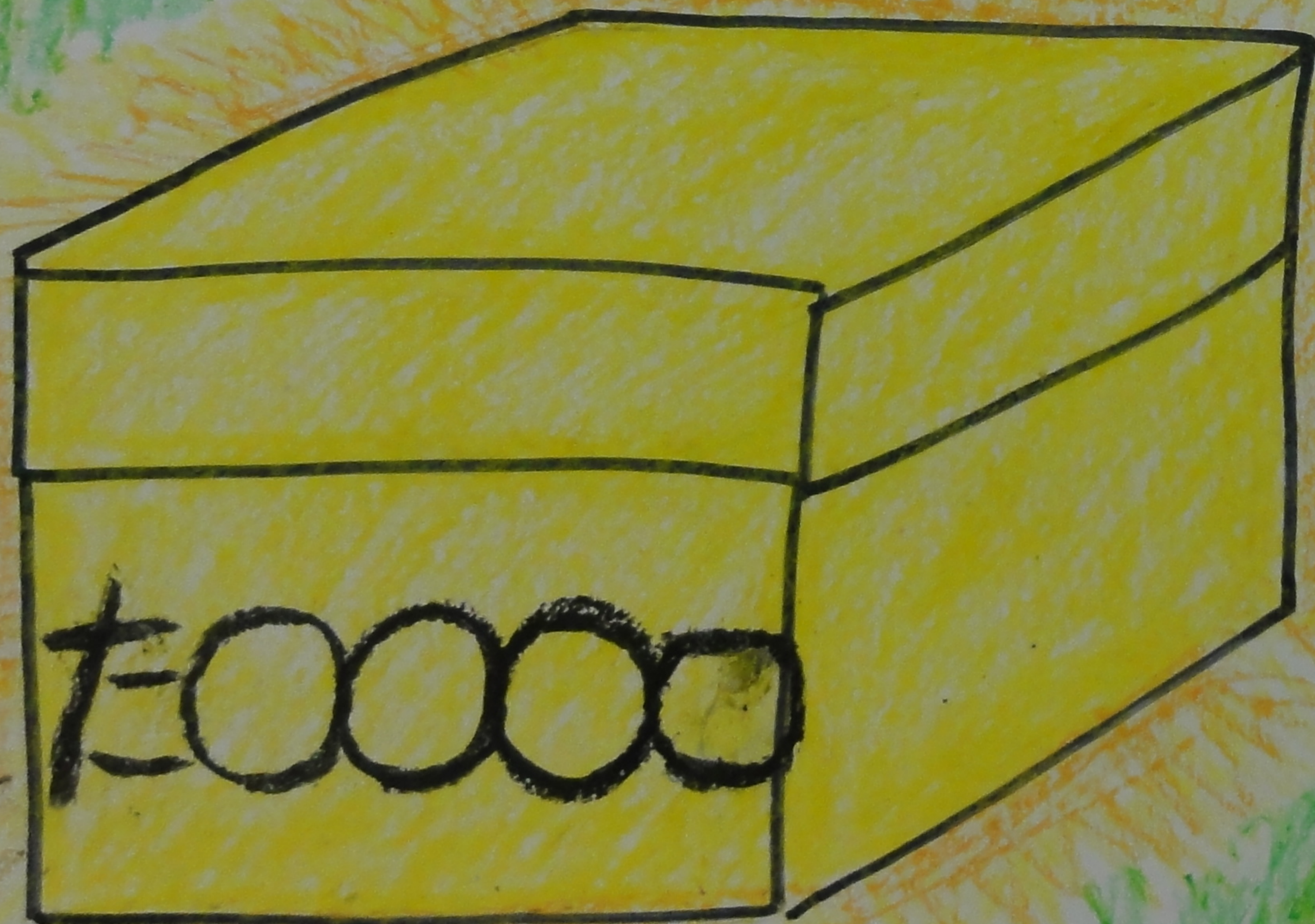
あたら!

スタート









ボクはカキカキカキカキカキ

たoooo











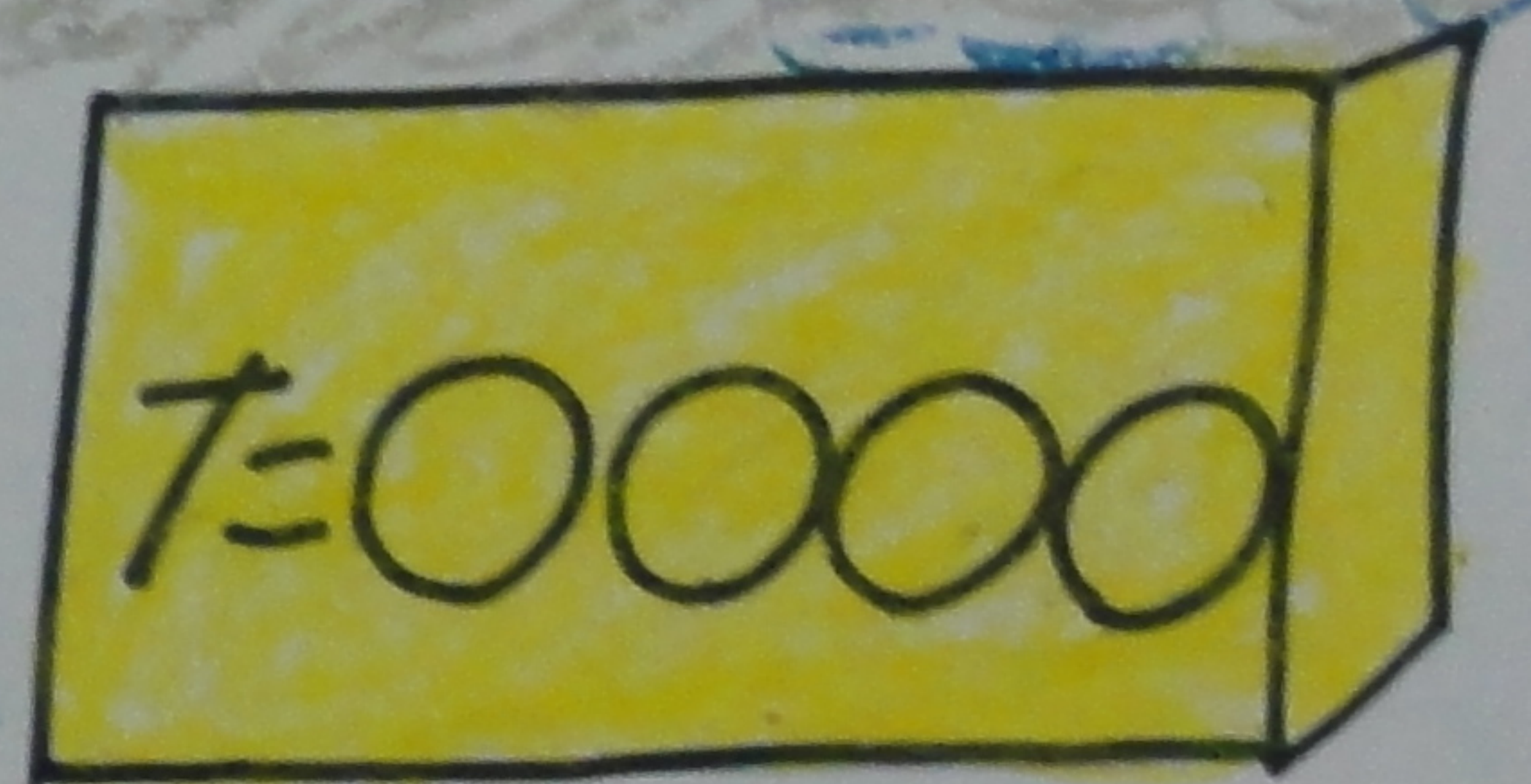
t=00000





たまてはこ

たばこまで





あなたを
愛しています。
一緒に元気で
生きていきましょう。

